地方創生

第3期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略

士幌町地域戦略課まちづくり推進係

はじめに

士幌町は、北海道十勝総合振興局管内の河東郡に位置し、町域の西北部には東大雪山系の東ヌプカウシヌプリ（1,252m）を最高峰とする山岳地帯、東部には佐倉山系の丘陵と居辺川（おりべかわ）の河岸段丘地帯があります。面積は259.19㎢で、平地が多く、面積の６割が農用地です。町内には国道２路線（241号、274号）と主要道道（本別士幌線）が通っています。

気象は、内陸性で夏と冬の温度差が大きいですが、年間日照時間が長く、快晴の日が多い特色を持っています。

基幹産業は農業で、畑作、酪農、畜産が盛んです。

また、士幌町農業協同組合が生産から加工･流通と、大規模な合理化・多角化を推進しており、馬鈴薯（ばれいしょ）コンビナートでは、フレンチフライ（フライドポテト）、コロッケなどを製造しています。2016年（平成28年）にはじゃがいもスナック菓子の製造工場も新設されました。

乳牛は２万頭、肉用牛は６万頭が飼養され、「しほろ牛」として出荷しています。

観光については、士幌高原ヌプカの里や道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」、道の駅「ピア21しほろ」などの観光拠点があります。道の駅「しほろ温泉プラザ緑風」については、2024年度（令和６年度）にバリアフリー化やデジタル化、環境負荷軽減も含めた施設改修を行い、賑（にぎ）わいの拠点としての機能や魅力が高まりました。

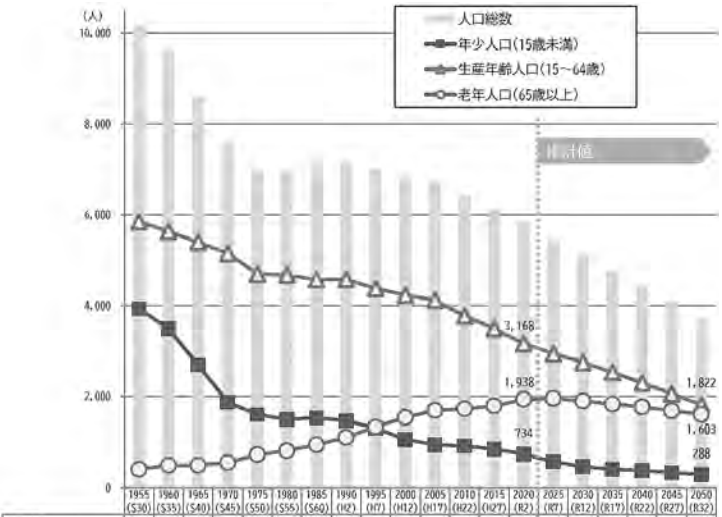




人口の推移

本町の総人口は、1955年（昭和30年）の10,181人をピークに、1975年（昭和50年）まで急速に減少しました。その後、1980年（昭和55年）から2005年（平成17年）までは横ばいの状況が続いていましたが、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）までは、５年前に比べて５％程度、減少する状況が続いています。

また、2023年（令和５年）に公表された国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、士幌町の総人口は、2040年（令和22年）には4,440人、2050年（令和32年）には3,713人になると推計されています。



	1955 (S30)	1960 (S35)	1965 (S40)	1970 (S45)	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
人口総数	10,181	9,617	8,581	7,567	7,028	6,979	7,044	7,149	7,010	6,839	6,755	6,416	6,132	5,848	5,471	5,111	4,773	4,440	4,081	3,713
年少人口(15歳未満)	3,932	3,497	2,697	1,875	1,605	1,499	1,533	1,468	1,302	1,054	940	911	844	734	568	459	403	369	329	288
生産年齢人口(15～64歳)	5,848	5,633	5,396	5,147	4,699	4,672	4,573	4,579	4,377	4,231	4,119	3,774	3,494	3,168	2,944	2,750	2,534	2,299	2,062	1,822
老年人口(65歳以上)	401	487	488	545	724	808	938	1,102	1,331	1,541	1,696	1,731	1,794	1,938	1,959	1,902	1,836	1,772	1,690	1,603

第３期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

2015年（平成27年）の国勢調査において6,132人だった本町の総人口は2020年（令和２年）の国勢調査において5,848人となり、この５年間で284人の減少となり、現在の人口減少のスピードがこのまま続くと、2040年（令和22年）には約76％、2060年（令和42年）には52%の規模になると推計されています。

そこで本町は、「人口ビジョン」において、人口減少のスピードを抑制し、将来の人口展望を2040年（令和22年）の時点で、約5,100人を維持するという目標を引き続き示しました。

「総合戦略」においては、「人口ビジョン」で示した将来の人口展望を実現するために、目指すべき方向と実効性が期待できる施策をとりまとめました。

⑴ 計画の期間や位置付け

計画期間は、国の総合戦略を勘案し、効果の高い施策を集中的に実施していくことを踏まえ、2025年度（令和７年度）から2029年度（令和11年度）の５年間としました。

また、本町は「町づくり総合計画」を最上位に位置付け、総合的・計画的な町づくりを進めています。

人口減少の克服・地方創生を目的としている「総合戦略」は、総合計画と密接な関わりがあり、「士幌町第６期町づくり総合計画」において重点的に取り組むべき内容（重点施策）として位置付けていることを継承し、2026年度（令和８年度）から2035年度（令和17年度）までを期間とする「士幌町第７期町づくり総合計画」においても、重点的に取り組むべき内容（重点施策）として位置付けております。

⑵ 目標人口と推進

目標人口は、「人口ビジョン」における将来人口を踏まえ、「第３期総合戦略」が終了する2029年（令和11年）に、約5,500人を維持することを目標としました。

また、「総合戦略」を推進、管理する組織として、町長を本部長とし、各所属長などで構成する「士幌町地方創生総合戦略本部」と、町民をはじめ産業界や教育機関、金融機関、労働団体、メディアなどで構成する「士幌町地方創生推進会議」を設置するとともに、施策や関連事業については、「士幌町地方創生推進会議」において実施内容を検証し、そこでの意見を踏まえ、「士幌町地方創生総合戦略本部」において施策や関連事業の見直しなどを行っております。



基本目標と具体的な施策

【基本目標１】 地域産業の活性化により、多様な雇用を創出する

次代の農業を担う後継者、新規就農者などを支援するとともに、マッチング支援などを通じて労働力不足の解消に努め、農業分野で働く人たちを増やします。商工業分野においても、起業や事業の後継、継承の支援などを通じて、働く場を広げます。

また、町立士幌高校、関係機関などと連携し、農業など既存の産業を軸としながら、新たな事業が発展、展開していくことを促進するとともに、起業や就業に必要な技術が取得できる環境づくりを進め、町内にある働く場の数や種類を増やします。

また、ワークスタイルの多様化を踏まえ、多様な働き方ができる環境づくりも進めます。

施策１－１ 地域産業の生産性向上と、支える担い手の確保・人材育成を支援します。

①地域産業活性化の取組と担い手を支援します。（農業者や商工業者の経営基盤強化）

②誰もが安心して働ける環境づくりと多様な希望をもつ若い世代が士幌で働く場を見つけることができるよう支援します。

③地域産業への関心を高めてもらい、働く場として選

ばれるようにします。

施策１－２ 地域産業の拡大・多様な事業活動と環境整備を支援します。

①士幌町で新たな事業を始める人を支援します。（創業・起業・企業誘致）

②地域資源を最大限に活用し「稼ぐ力」を高め、地域の競争力を強化する取組を支援します。

【基本目標２】 人の流れを増やし､住環境を充実させ､移住・定住を促す

道の駅「ピア21 しほろ」や「しほろ温泉プラザ緑風」など町内の観光・交流拠点や観光資源の魅力を高め情報発信することで、本町で滞在・交流する国内外からの来訪者（交流人口、関係人口）を増加させます。

また、移住を検討する際に必要な情報や相談相手を見つけやすくするとともに、多様な居住ニーズを踏まえた住環境づくりに努めることで、本町での暮らしに関心を持つ人たちが移住につながりやすくします。

そのほか、ふるさと納税やＳＮＳなど、来訪以外でつながる人たちを増やし、地域活性化や来訪、移住などにつなげていきます。

施策２－１ 多様な人とつながる機会を増やし、「関係人口」の創出や拡大により移住を促進します。

①交流拠点の魅力や機能を高めます。

②来訪や滞在を促し、多様な人とつながる取組や情報発信の充実に努めます。

③自治体広域連携による観光交流やふるさと納税を通じた関係人口の創出・拡大と移住・定住に関する事業を推進します。

施策２－２ 住んでみたい、住み続けたい、多様な住環境をつくります。

①子育て世代や町外からの通勤者などの居住ニーズを把握し、支援策を検討します。

②短期・長期滞在や二地域居住ができる住宅の利用を促進します。

③空き家・空き地対策、町内に住みたい人・住み続けたい人の希望を実現する支援と環境を整備します。

【基本目標３】 結婚･出産･子育てへの支援を充実させる

転出が多い若い世代、女性の定住ニーズを踏まえ、士幌町での暮らしや過ごし方により一層関心を持ってもらい、地域との関わりを深めてもらえるよう取組を進めます。

また、こどもを産みたい人、多くのこどもを産み育てたい人など、それぞれの希望がかなうよう支援します。

さらに、子育て支援や教育に関する環境づくりとともに、子育てにかかる負担の軽減に引き続き努めることで、本町でこどもを育てる魅力を高め、子育て世帯の定住促進と町外からの移住を促します。

施策３－１ 結婚や出産を望む人を応援します。

①若い世代が交流する機会や出会いの場を創出します。

②結婚を希望する人を支援します。

③こどもを産みたい人を応援します。

施策３－２ 士幌でこどもを育てたい、教育を受けたいと思う人を応援します。

①子育てに関する情報を得やすく、相談がしやすい環境をつくります。

②育児と仕事が両立しやすい環境をつくります。

③士幌町ならではの学びや体験プログラム、地域特性のある取組を進めます。

④地域の魅力を育み、個性あふれる教育と環境づくりを進めます。

⑤子育てにかかる経済的な負担を軽減します。

【基本目標４】 安心して住み続けることができる地域をつくる

住み続ける上で不安が生じやすい医療・福祉環境の向上や交通手段の維持、本町で安心して生活を送ることができる環境づくりを、デジタルや新技術を積極的に活用しながら、高齢になっても安心して住み続けることができる生活環境づくりを進めます。

また、多様な世代の人たちが活躍できる地域づくりを促進し、本町で生きがいを感じながら生活できる環境を充実させます。

さらに、近年、関心や必要性が高まっている省エネルギーや事前防災の視点に立った取組を地域ぐるみで進めます。

施策４－１　士幌に住み続けられる生活を実現する魅力的なまちをつくります。

①質の高い暮らしのため、まち機能を充実させます。
②医療や介護の不安を和らげ、住み慣れた自宅や地域で暮らせる包括的な支援、地域医療体制を充実させます。
③こどもから高齢者まで誰もが学び集い、活躍できる地域を形成します。(各施策を活用した「ごちゃまぜ」コミュニティの推進)
④2050ゼロカーボンシティ達成に向けて再エネ導入・省エネを促進します。

施策４－２　質の高い防災機能をもつ災害に強いまちをつくります。

①災害に対する日頃の備えを充実させます。
②災害時に、避難や支え合いがスムーズに行えるよう、日頃からのネットワークづくりを進めます。

取組事例　1

【士幌町乗合交通「ぽてたく」の運行】

空便が多くなっている町営バスなどの公共交通の運用を見直し、令和８年10月から、利用者の予約に応じて運行する乗合交通の実証運行を実施しています。



取組事例　2

【２種類の移住体験住宅の運用】

士幌町の下居辺地区には、10泊以上最長90泊まで利用できる「ちょっと暮らし体験住宅「オリベ」」と、住宅の前に100㎡の農園があり、３か月以上最長３年間利用できる「もっと暮らし体験「農園付き住宅」」の２種類の移住体験住宅が整備されています。

利用者のニーズに合わせて紹介し、士幌町への移住者、二地域居住者、関係人口の増加に取り組んでいます。



おわりに

人口減少社会となった今日、地域を訪れる交流人口や、地域や住民と多様に関わる関係人口が、地域経済の活性化や地域づくりの担い手、さらには移住者の増加につながることが期待されています。

各基本目標の施策を通じ、「誰もが関わりたくなる農村ユートピアを目指して」をテーマとして、人口減少に適応し、将来にわたって「持続可能な地域社会」を実現するためのまちづくりを進めてまいります。

誰もが関わりたくなる農村ユートピアしほろ

人口の減少は士幌町のまちづくりに様々な影響を与えていますが、士幌町と関わりを持つ人は、日本はもとより世界中に広がっています。

住民はもちろん、町外の人も士幌のまちづくりに関心を寄せ、関わりを深めてもらうことで、住み良さ、過ごしやすさをより感じることができる農村ユートピアを目指します。